

平成27年度第2回安曇野市博物館協議会 会議概要

1	協議会名	平成27年度第2回安曇野市博物館協議会
2	日 時	平成27年10月9日(金) 午後1時30分から
3	会 場	安曇野市役所 会議室301
4	出席者	笹本会長、滝沢副会長、赤沼委員、小野委員、小林(直)委員、細野委員
5	市側出席者	橋渡教育長、那須野文化課長、降旗豊科近代美術館長兼穂高陶芸会館長、堀田淵行男記念館副館長、百瀬豊科郷土博物館長、逸見穂高郷土資料館担当、宮下高橋節郎記念美術館長、清水貞享義民記念館長、内川白井吉見文学館長、西山博物館係長、小倉博物館係員、山田文化振興係長、丸山文化振興係主事
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成 27年 10月 22日

協 議 事 項 等

○会議の概要

- 1 開 会 (橋渡教育長)
- 2 あいさつ (笹本会長)
- 3 報告・協議
 - (1) 平成27年度各館事業進捗状況及び平成28年事業構想について
 - (2) 新市立博物館構想について
 - (3) その他
- 4 その他
- 5 閉 会 (那須野文化課長)

○協議概要

- (1) 平成27年度各館事業進捗状況及び平成28年事業構想について

○各博物館・美術館長(資料内容説明)

○委員からの意見

会 長・ ・私たちが未来に向かうときに、博物館・美術館が、過去を振り返り未来を論じられるような施設であることは非常に大事です。来館者の意見をできるだけ取り入れながら、委員には館がよくなるように引き続きご指導いただきしたいと思います。

豊科近代美術館の「藤井千秋展」ですが、来場者アンケートの記入者を見ると、全体の半数を40歳以下の方が占めています。若い人たちが入っていて大変な努力です。

田淵行男記念館については、場所が狭い中で、豊科近代美術館と連動して収蔵庫を使用しています。つまり、博物館が単純に独立しているのではなくて、連携している。

貞享義民記念館は、貞享義民という概念そのものが安曇野市全域の中では埋もれてしまっています。つまり、今までの三郷村における段階とは、随分性格が違ってきます。だからこそ、人権とは何かということを考える上で、貞享義民記念館が大事になってくると思います。

今年は1週間にわたり、博物館・美術館の無料開放を行いました。これは大事なことです。毎年、3～4日はやってほしいと思います。市の財産である施設に市民が来ることは必要です。本委員会としては、積極的にやってくださいという提言をしていきたいと思っています。

飯沼飛行士記念館については、市民・県民まで含めたらほとんどの人が知らない時代になっています。間違いなく、今後のことを考えざるをえない時期に来ていると思います。

白井吉見文学館についてですが、全国的に文学館に入る人はどんどん減っています。塩尻市に、古田晃記念館があり、いい展示をしています。けれども、ほとんど人が入っていません。穂高交流学習センター「みらい」や豊科交流学習センター「きぼう」に相当数の人が来ていることと、こういう文学とをどうやって結びつけていったらいいのか。その辺りを本委員会でも次を見据えて考えていく必要があるように思います。

安曇野市の場合は、全体として連携事業をたくさん行うようになっていきます。意図的に小・中学生を対象にしていることは重要な点だと思います。これから先は、学校ミュージアムのような形で積極的に行き、次の段階の博物館・美術館を考えていかなければいけないと思います。

委員・・博物館・美術館の無料開放の取り組みはよかったです。中学生を3人連れて行ったところ、大人とは違った子どもの感覚で地元の展示品に興味をもって見ていました。期間中に1日定休日があったことについて、この日は市内中学校の振替休日に当たっていました。教育委員会内で学校教育課と連絡を取り合っていたならば、生徒が利用できたと思います。

小・中学校のPTA行事の一環として、親子レクリエーションがあります。以前は、穂高北小学校PTAで穂高陶芸会館を利用したこともありましたが、年度初め、PTA新規役員へ向けて情報提供すれば、利用者拡大できるのではないのでしょうか。

安曇野高橋節郎記念美術館について、子どもが専門家に声を掛けてもらいながら体験できる講座があることは、貴重だと思います。子ども向けだけでなく、親子向けの機会があればいいと思いました。

会長・・今後、無料開放を検討する際は、日程を調整して、入館者を増やせるように全日開館で開催するように考えていただきたい。穂高陶芸会館の利用についてもいい案をいただきました。できるだけ実行してください。

委員・・今後の博物館・美術館は、巣を張って来館者を待つのではなく、出掛けて行って来館者を捕まえてくるようになってほしいです。

先ほど、子どもが触れて楽しんでいく体験を通じて、人数が増えたと言っていましたけれども、五感で楽しむ・体験することが大切だと思います。

各館の展示・企画の数が多いです。数を減らして質を高めることが大事ではないのでしょうか。お年寄り、子どもがいろいろ楽しめるように、内容を深めることで多くの人に見てもらおうようにするのはどうでしょうか。1つのテーマにしても、大人・子ども各々に向けた展示を設定してはどうかと考えているわけです。

豊科郷土博物館については、今年度、食文化について非常によく取り組んでいました。年間を通じた展示テーマを設定してはどうでしょうか。来年は例えば、産業・工業・商業・農業からどれかなど。1つの分野をとっても幅広い。1つのものに絞りながらも、枝葉をつけて広げていければ興味が湧いてくるのではないかと思います。

それから、安曇野市美術展をやってほしいと思います。まず、人の少ない2月または春に、絵画・彫刻・工芸・写真を対象に美術展を開催し、選ばれた作品には例えば市長賞をつける。そうしたら今度は5地域で行われる秋の文化祭で、その受賞作品を展示する。すると、市民が受賞作品を目当てに文化祭に来場するなど、繋がっていくのではないのでしょうか。

先ほど、貞享義民騒動に焦点を当てた施設は市全域では捉えられにくいという話が出ていました。先日、貞享義民記念館開催の現地講座へ参加しました。現地で目で見・肌に触れることは理解する上で有益です。広く理解されていく上でも、焦点を絞って、深く理解を促すこういった方法は、役立ちます。

安曇野ミュージアムスタンプラリーのパフレットですが、広報のように1軒に1部送るのはどうでしょうか。あまり人気が出なかったと聞きましたが、賞品がありません。安曇野市へのふるさと納税も、返礼品にパソコンが加わって以降、人気が出ました。それと同じ発想で、例えば、全館回ったら入浴券あるいは1年間有効の無料入館証をもらえるとか、半分回ったら半年分の無料入館証をもらえる等が必要ではないのでしょうか。

会長・・これから先、人口が減少し、博物館の使い方も変わってきます。先ほど、入館者を捕まえて行くという発想への言及がありました。中でもこれから先、市を背負い立つ人がどれだけ市のことを知りうるか。その点を考慮に入れながら、より多くの人に来てもらえるような方向性を考えていきたいです。

委員・・可能ならば、近・現代を視野に入れた展示を望みます。臼井吉見文学館ならば小説『安曇野』、飯沼飛行士記念館ならば第二次世界大戦の資料、豊科郷土博物館は歴史や民俗といったように各々の館で専門性があるでしょう。市にある資料を活かすためにも、そういった収蔵品をまとめあげるような展示をやってもらえると、またそれが次の発想に繋がる気がします。複数館でテーマを共有・展示品等融通しながら、それ

それからテーマに迫っていくといった展示をできないでしょうか。

会 長・・1年に1週間なり期間を定め、全体テーマの上で、各々の館がテーマに迫った展示をする等、横を意識して取り組むことが大事だと思います。そのためには、現在、仕事ですぐに目いっぱい状況ですので、中にはやめてもいいものもあると思っています。展示は数が増えれば人が来るのではなくて、中身が薄くなります。いい展示の方が、入館者数に先立ちます。入館者が1～2年先減ったとしても、横の繋がりのある新展示方式がその2～3年先に出てくれば、その方がいいでしょう。学校に出掛けていくことを含めて、いろいろなことを考える時期にそろそろ来ています。

委 員・・博物館・美術館めぐりを各地区の公民館活動の一環に位置付けられないでしょうか。現在、地区公民館で行われている人権教育への取り組みは、行政から方向づけられたものです。すぐにというわけにはいかないと思いますが、長期的な視点から検討してはどうでしょうか。

博物館・美術館の年間行事ガイドについて、中学生議会で提案されたことが、実現されたとのことは非常にいいことです。各支所や公民館窓口等、大勢の人の集まる場所へ配布することも考えてほしいと思います。コンサートのあるときは、入りきらない程の人が集まります。今後もそういう企画を続けていってほしいと思います。

会 長・・公民館をどういうふうに取り込むかは今後大きな問題になります。安曇野の文化全体をどうやって盛り上げていくかというときに、文化振興策の中では、公民館活動を考えなければなりません。公民館も、講座に困っています。公民館に誘いを掛けて、それをきっかけに来ていただき、人を増やすというのは非常にいい案です。市全体の文化の中で、博物館・美術館をどう位置づけるかということをもう1度考えなければなりません。それは、小・中・高等学校や公民館との関わりの中にもある。公民館活動に対して提案することはしていただきたい。

委 員・・博物館の記事が1面に載っていました。新聞などを使って、ぜひPRしていつてもらえたらいいと思います。今の時期どこで何をやっているというのがすぐに出て来るようなシステムがあればいいかと思います。ぜひそれを考えていただけたらと思います。

会 長・・お客さんが来る、来ないも広報。それから、開催したことの証明も広報です。市ホームページで年間行事ガイドが見られないことは残念です。積極的に情報収集する人が閲覧できる状態にしてほしいと思います。

委 員・・周知にあたっては、国営アルプスあづみの公園を利用できないでしょうか。自身のガイドボランティアの経験から述べます。先日、公園の無料開放日には、5,000人とも8,000人ともいう来園者がありました。よそから来て帰りがけにどこかへ寄ろうかと考える人もいます。そういう方に助言することもあります。集客力のある公園で全国から来る人に向けて繰り返しPRできたらいいと思います。

安曇野高橋節郎記念美術館について、漆といえば、石川県の輪島がテレビで話題になりました。県内には木曾漆器もあります。タイアップして盛り上げられないでしょうか。

会 長・・市には養蚕等、未連動ながら大事なものがいくつかあります。市として横のつながりを持ちながら、これからいろいろ計画を立ててもらえたらと思います。

(2) 新市立博物館構想について

○事務局からの説明

会 長・・現状ですぐ造るよりも、15年くらい時間を掛けて人をつくった上で、よりよい博物館を目指すべきだと思います。

委 員・・立地条件の個性という項目を、より具体的に絞ってほしいです。自然的な要素や歴史的な立地が取り入れられると思います。自然的な要素でいえば、水です。そして歴史的なことをいえば、貞享義民記念館は身近に様々なものが残ってきます。そういったことを具体的にした上で、市民に問うたらよいのではないのでしょうか。

会 長・・博物館の立地には、例えば、湿気の高いところは劣化の問題を招きます。実際的な問題もありますが、新市立博物館が市をどういうふうにするかという、次の段階に関係してきます。市の新しいセンターになるような場所にする等、そういったことを考えるべきです。まずはこういう具体的ではないことも考えなくてはなりません。

(3) その他

事務局・・・次回の博物館協議会について、平成28年3月下旬に予定しています。委員の皆様の任期が平成28年3月末までになっています。改選に先立ち、2月くらいに広報を通じ、公募委員の募集を行います。年度末に次期委員のお願いをすることもあります。よろしくお願ひします。

以上